



しみんの広場

CITIZEN'S PLAZA

もくじ

- 広報サポーターカメラリポート……………2ページ
- 投稿(成章高校吹奏楽部 教職員美術サークル展)…3ページ
- 地域の話(中山校区)……………4ページ
- 市民活動を応援するページ……………5ページ

広報サポーターカメラリポート



アカウミガメの卵を守ろう

こんにちは。広報サポーターの喜田恵子です。天竜川と太平洋の表浜の砂が同じだということを、皆さんはご存じでしたか?この縁で、谷ノ口地区の有志が、天竜川の流れる長野県飯田市の子どもたちと一緒に、アカウミガメの卵の保護に取り組みましたのでご紹介します。



喜田恵子

人の手による卵の保護

アカウミガメが、6月ごろから産卵のために表浜の海岸に上陸しはじめました。2010年度は、7月の時点で8頭の上陸(南町〜百々付近)が確認されています。地元の方の話によると、表浜の海岸の砂が少なくなったため、消波ブロックの端で卵を産むようになったとのことでした。消波ブロックの手前に産むと、海が荒れているとき、卵が水に漬かることがあります。1、2度だけなら平気ですが、何度も漬かると卵が死んでしまいます。今回見つけた産卵場所は、消波ブロックが邪魔をしていました。本来は、卵を掘り起こさずに自然に任せたいのですが、やむを得ず人の手で移動させることにしました。

私は、表浜付近に住んで数十年になります。私がアカウミガメが産卵のために上陸していることを知りませんでした。表浜には、「ほうべ」といわれる高い崖が遠州から伊良湖まで続いていて、この崖により電気の明かりが届かないので、産卵場所としていいのだとか。今の子どもたちが大人になっても、昔からの自然の営みが続いているといいですね。



●卵を安全な場所に埋めました

60cmほど掘ると、卵が見えてきました。卵は成長し始めているため、上下左右に動かすと死んでしまうので、慎重に取り出していきます。卵の大きさは卓球の球ぐらいで、卵の殻は産卵後しばらくの間は軟らかく、徐々に固くなっていきます。親ガメは一度に約150個の卵を産み、二頭が産卵時期に2、3度浜に上陸し産卵します。今回は100個ほどの卵が確保できました。安全な場所に深さ60cmほどの穴を掘り、卵を入れていきます。穴は、奥は広く出口はなるべく狭く掘らなくてはなりません。全ての卵を入れてから、優しくしっかりと砂をかぶせました。



●みんなで卵を掘り出しました

●100個ほどありました

●まだ卵は軟らかかったです



●ビーチクリーンも行いました

●慎重に卵を取り出しました